

西本章議会報告

福山市議会
市民連合

2022年
4月1日
NO. 72

編集 西本章後援会事務所
福山市引野町一〇五二二二
TEL 〇八四(九二六) 五四四一
FAX 〇八四(九二二) 五二二二

早くコロナが終息に向かいますように

コロナの状況

全国的には新型コロナウイルス感染症拡大の波が少しづつ収束に向かっていますが、福山市では依然として感染者が多い状況が続いており、今後も油断できない状況です。学校や保育所また、職場等での感染も続いています。個人の感染

3月定例会議を終えて

予防の取り組みは充分されていますが、なかなか感染者数の減少に向かいません。3回目のワクチン接種や1歳から1歳の子どもの接種も取り組まれています。感染者数の減少にはもう少し時間がかかりそうです。

一人市長の新年度予算への思い

新年度の福山市一般会計予算はコロナ禍で厳しい財政環境下の中にあっても、昨年を1.4%上回る、過去最大規模の1496億4400万円の予算になりました。歳入では市税の対前年度比8.8%増の要因があります。今後も収納率の向上や財政調整基金からの繰り入れの考えも明らかになっています。歳出では重点政策として「新型コロナウイルス感染症対策の強化」「都市魅力の創造」「人口減少対策の強化」などの柱とし、さらさらえる基盤となるデジタル化推進に引き続き注力し、安心と希望のための挑戦予算であると、説明された。

一人新型コロナ感染症への対応

3月議会冒頭の市長総体説明では、市民へのお願いとして、今一度、マスクの着用、換気といった基本的な感染予防策を徹底してお願いしたいとし、感染拡大防止と社会経済活動の両立をめざして対策を進め、迅速なPCR検査体制の確保や、国の補正予算に伴う前倒しとして、教育、保育施設に必要な衛生用品を配備すると表明された。また、病床と宿泊療養所の確保、酸素濃縮装置の配備を加速し、ワクチン3回目の接種促進、5歳から1歳までの小児接種の体制を確立する、中小事業者への支援、事業の継続と雇用を守るため、市独自の対策を、国の補正予算に伴う前倒し分を併せて取り組むことへ。

一人市財政に見る市民一人当たりの借金

2020年度決算における数値では福山市の市債現在高(借金)は1946億円です。これを市民一人当たりで計算すると、30万7千円になります。この金額は県内市町の中では一番低い額になっています。また、市の財政調整基金(貯金)は約68億円です。

市債現在高(借金)の全国状況を見ると、62中核市の中で福山市は20番目に低い額となります。また、国の国債・借入金(借金)は2021年の月の時点で1220兆円余となり、国民一人当たり約974万円です。子どもから高齢者まで国民からその金額の借金をしていることとなります。もし、会社だとすれば倒産しかねない状態です。それが現在の国家財政状況です。

予算特別委員会討論(西本提案関係)

○新年度から障がい者歯科受診支援事業費補助を新設したことは評価するが、福山市歯科医師会との連携を強化し、県東部地域での治療が受けられるようさらに検討し、早期に具体案を示すこと。

○ICT教育の推進として導入した学習用端末(タブレット)の成果と課題を明らかにすること。

3・5市民集会と市議会での「ロシア」非難決議採択

2月24日、ロシアがウクライナに突如、理由なき侵攻を開始しました。いかなる理由があっても他国への侵略はあってはならないことです。3月7日土曜午後には市民グループで、福山駅前においてロシア侵攻抗議の街頭宣伝を行いました。私もマイクを持って訴えました。多くの市民が犠牲になっています。早くもまたこの犠牲も増えています。何としても早い停戦、軍の撤退を求めます。一人ひとりが戦争反対の意志を示すことが必要です。4日にも、毎月行っている行動にあわせて「ロシアのウクライナ侵略反対」の呼びかけと、ビラ配布、街頭カンパの行動にも参加しました。

福山市議会としては3月7日の本会議で「ロシアによるウクライナ侵略を非難する決議」を全会員の総意で採択しました。私は副議長として、議院内での調整役を担いました。一日も早くウクライナに平和が戻ることを願い、そのための取り組みを強化していかなければなりません。

東日本大震災 3・11から11年が経過

3月11日、関東死亡者も含め3万人が犠牲になった東日本大震災から11年が経過しました。犠牲者の内2500人以上の方が未だに行方不明となっています。議会では予算特別委員会の審議中でしたが、議員、理事者を含め委員会を中断して黙祷を捧げました。昨年も同じ予算特別委員会開催中でした。何年経っても忘れることがない時間です。



震災被災者が住み慣れた地域に帰れないこと、放射線の後遺症、原子力発電所の課題と残された問題がいくとあります。そんな中、政府は10年経過したとしても、式典等の簡略化をしました。私は東日本大震災が風化してしまわないようにと懸念しています。日頃から災害対応とともに、被災者に対する寄り添った行政施策が引き続き必要だと思っています。